

第 21 回 総会記念講演 静岡にエデン・プロジェクトを！

佐藤洋一郎館長

2022年4月24日（日）に、ふじのくに地球環境史ミュージアムにて、第21回 NPO 法人静岡県自然史博物館ネットワーク総会を開催しました。新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みながら、30名（委任状63名）が出席し、2019年以來3年ぶりに集会形式の総会を開催することができました。そして今年20周年を迎える自然博ネットの総会記念講演は、2021年にふじのくに地球環境史ミュージアムの館長に新たに就任された佐藤洋一郎先生にお願いしました。以下に、その講演要旨を掲載します。

「静岡にエデン・プロジェクトを！」

生態系の持続はどのようにすれば図られるのか。とくに、人間活動が関与する人為生態系の持続可能性はどのように担保されるのだろうか。われわれはまだその答えを持っていない。たとえば日本列島における水田生態系は、2000年にわたる安定な生態系であるかに考えられてきたが、実際にはそのようなことはない。「緑のじゅうたん」のような水田生態系が維持されるには、近世のように膨大な労働力をつぎこんで（つまり農村部の人びとの犠牲の上に）安定を維持するか、または化学肥料や農薬などを大量に投入して疑似的な安定を図るかどちらかであり、後者の場合環境への負荷は極めて大きい。

では、どのような人為生態系が安定なのか。言い換えれば、自然生態系における「極相」のような安定とはどのようなものか。その解はひとつではないだろうが、一つの解を得るために最低規模の人工的な生態系を作り出して運用してみればよいのではなからうか。たとえば、弥生時代の農業生態系における解をえようとするなら、数ヘクタール？の土地を用意し、弥生社会が持っていたモノと技術だけを用いてそれを運用する。おなじことを、縄文、中世、近世についてもやってみる。そこでは生産量の推定とともに、それぞれの生態系に随伴する植物、昆虫、小動物の個体数や多様性などの調査をおこなって安定性を評価するのだ。



佐藤洋一郎館長
講演「静岡にエデン・プロジェクトを！」



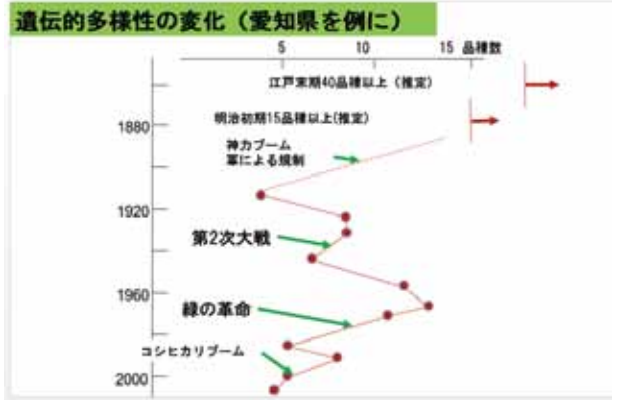
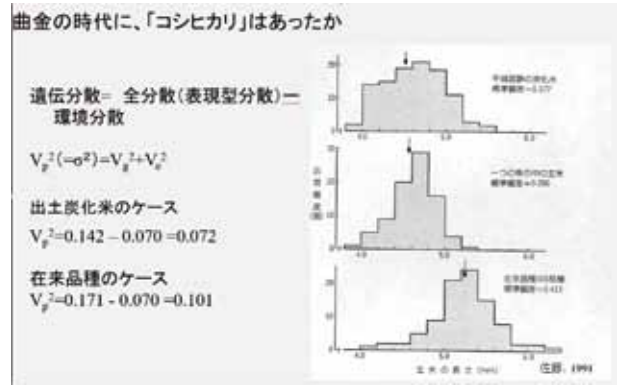
EdenProject のバイオーム

Eden Project（エデン・プロジェクト）は、イギリスのコーンウォール州にある、巨大な複合型環境施設。「バイオーム」と呼ばれる2つの巨大な温室をそなえ、熱帯や地中海の温暖な気候が再現されている。

似た発想で組み立てられたプロジェクトが英国にある。Eden Project がそれだ (https://www.edenproject.com/)。EdenProject はバイオームに沿ったいくつかの自然生態系を温室内に再現しているが、この「静岡 Eden」には温室は必ずしもいらぬ。Eden の Eco 版が静岡 Eden である。人為生態系ではあるが、さまざまな随伴動植物が安定した生態系を支えるのに必須である。つまり静岡 Eden は静岡の生態系の動態保全園でもあるのだ。

それぞれのバイオームは当初の想定とは異なる反応をする可能性がある。しかしやがて、静岡の環境に即した系へとその姿を変えてゆくだろうその変化の過程の追跡は、学問的にも価値の高いものとなる。

わたしは、この静岡 Eden をミュージアムが運営してはどうかと考えている。ミュージアムは、「100 年後」を標榜している。しかし静岡県が今後ミュージアムの発展を支持してくれるかはやや不透明である。市民の理解を得るには長い道のりが必要だ。コロナ禍、ウクライナ侵攻などで、文化芸術、学術への社会の理解は相対的に弱まってゆくと考えられる。こうしたことを考えるにつけ、また動態保全という新しい形の展示の実現という観点からも面白い試みだと思ふのだが、どうだろうか。



静岡エデンプロジェクトの5つのエデン

愛鷹エデン...	稲作以前のころ
登呂エデン...	登呂時代・曲金時代ころ
北條エデン...	中世
駿府エデン...	近世
トトロエデン...	昭和30年代

静岡エデンプロジェクトでおこなう5事業

1. 低炭素時代の里山再生システムの構築に関する研究

1. 該当地農作物の調査および植樹や農作物の栽培
2. 養分元素動態の調査
3. 微生物相の多様性に関する調査

2. 生物多様性の回復・安定機構に関する研究

1. 生物多様性の調査
2. 溜池、草刈、間伐による生物多様性の回復
3. 火耕地や無農薬水田におけるイネや雑穀による作物多様性の回復

3. 市民環境学講座および地球環境ツアー

※ レストラン事業等に協力

1. 市民環境学講座
2. 地球環境ツアー

4. 広報活動

